企画展　沖縄県立埋蔵文化財センター

平成12年度

発掘調査速報展

平成13年7月31日(火)～9月2日(日)

沖縄県立埋蔵文化財センター

ご　あ　い　さ　つ

沖縄県立埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、保存活用を図り、広く県民に公開するための施設として、平成１２年４月１日に開所致しました。

平成１２年度は、緊急発掘調査や分布調査等１２件の調査を実施しました。米軍基地内では新城下原第二遺跡を含む３ヶ所、首里城跡内郭の御内原地区を含む周辺地域の６ヶ所で、その他久米島のヤッチのガマ・カンジン原古墓群と宮古島新里元島遺跡などの発掘調査と沖縄本島中部地区の戦争遺跡詳細分布調査を実施しました。

これら発掘調査の成果は、資料整理などの調査研究を経て『調査報告書』としてまとめられますが、完成までにはかなりの時間を必要とします。

発掘調査の成果につきましては、遺跡見学会や新聞報道等で紹介しておりますが、多くの方々に充分な紹介が出来たとは考えておりません。このようなことから、今回、報告書の発行に先駆けて企画展『発掘調査速報展』を開催することになりました。

『発掘調査速報展』では主要な出土品や写真パネルなどの展示を通して、当センターの発掘調査業務等と埋蔵文化財の保護についての理解を深められることを願っております。

平成１３年７月

沖縄県立埋蔵文化財センター

所　長　　知　念　　勇

なぜ発掘調査を行うのでしょうか？

遺跡(いせき)や遺物(いぶつ)といった古代の人々が残した生活の痕跡(こんせき)や道具などを埋蔵文化財(まいぞうぶんかざい)といい、その多くが地中に埋もれ直接目にすることはできません。それらは、発掘によって調査され、古代の人々の生活の様子、そして、どのような文化をもっていたのかを知ることができます。また、古代の人たちの生活をふり返ることで、現在だけでなく将来について考える貴重な手がかりとなります。

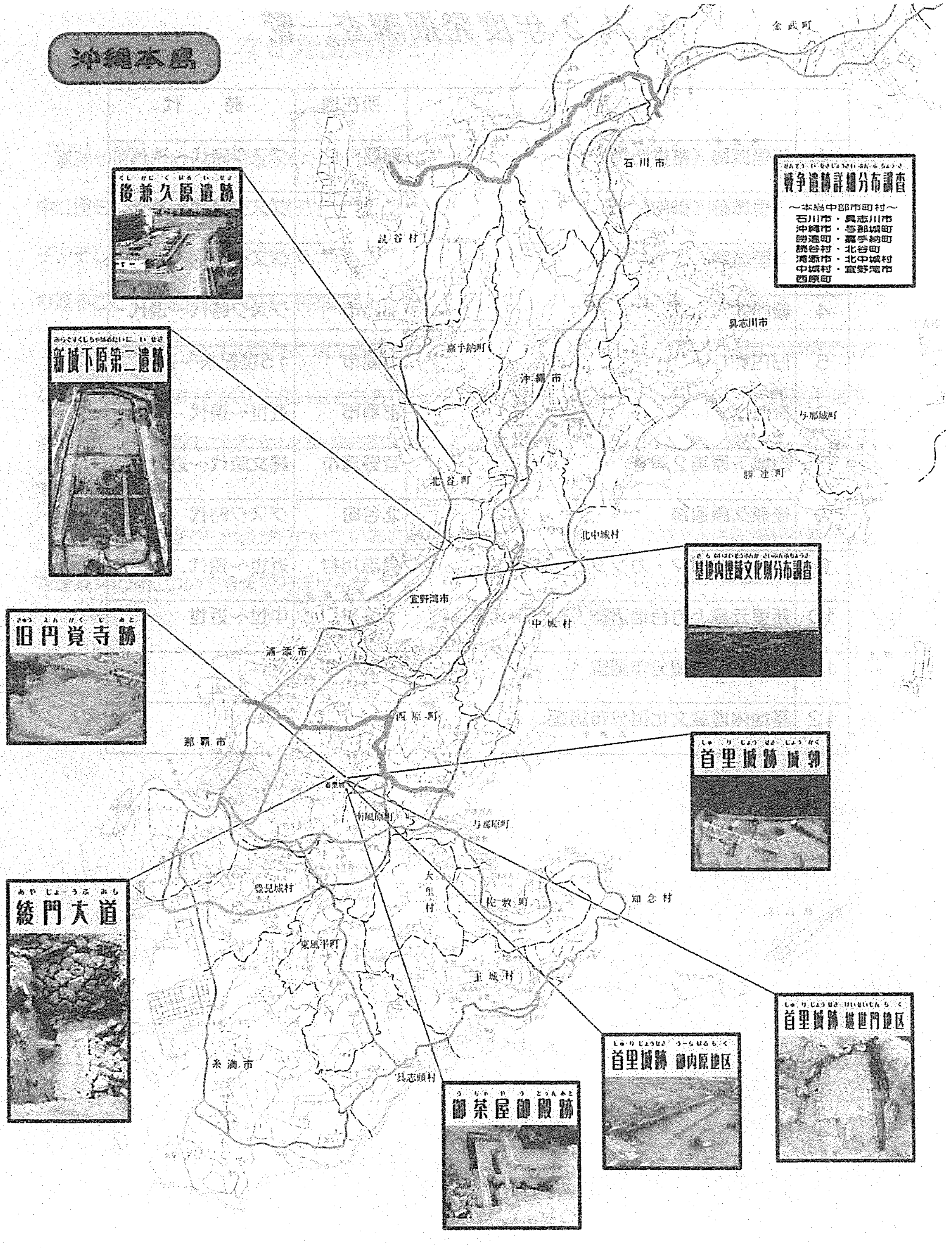
埋蔵文化財は、文化財保護法に規定されています。しかし、工事・開発などやむを得ない事情で仕方なく遺跡を壊さなければならないこともあり、その場合、記録を保存するための発掘調査が行われます。沖縄県内では、埋蔵文化財センターや市町村教育委員会により、年間約40～50件の発掘調査が行われています。

みなさんの周囲でも調査が行われていることがあります。この機会に、みなさんの町や村にある身近な埋蔵文化財について考えてみませんか。

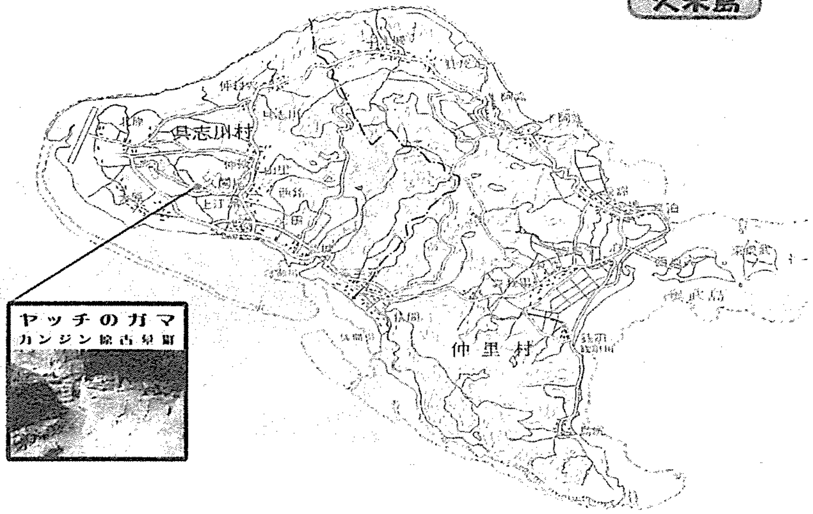
平成1 2 年度発掘調査一覧

	遺　跡　名	所在地	時　　代
1	首里城跡（継世門周辺地区）	那覇市	グスク時代～現代
2	首里城跡（御内原地区）	那覇市	グスク時代～近代
3	首里城跡（城郭）	那覇市	グスク時代～近代
4	綾門大道	那覇市	グスク時代～現代
5	旧円覚寺跡	那覇市	15世紀末～近代
6	御茶屋御殿跡	那覇市	近世～現代
7	新城下原第２遺跡	宜野湾市	縄文時代～近現代
8	後兼久原遺跡	北谷町	グスク時代
9	ヤッチのガマ・カンジン原古墓群	具志川村	近世～現代
10	新里元島上方台地遺跡・新里東元島遺跡	上野村	中世～近世
11	戦争遺跡詳細分布調査	本島中部	近代
12	基地内埋蔵文化財分布調査	宜野湾市	

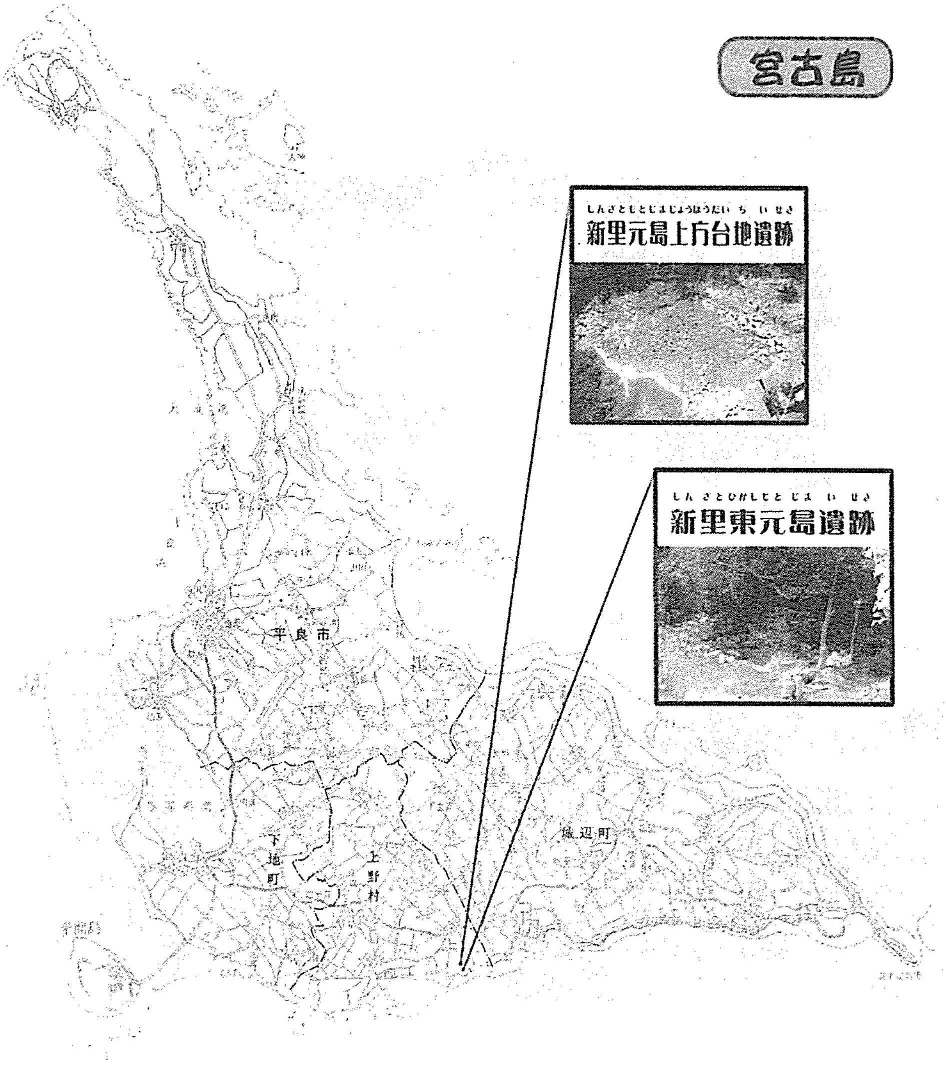
平成12年度調査遺跡分布



久米島

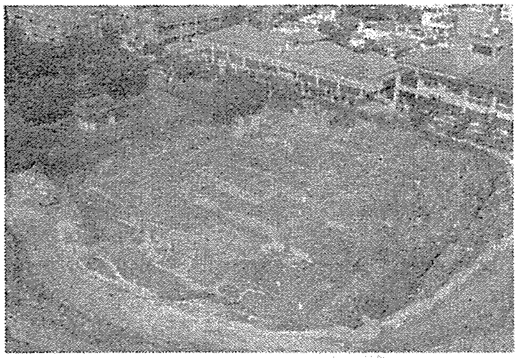

具志川村
仲里村
奥武島
ヤッチのガマ

宮古島


しんさともとじまじょうほうだいちいせき
新里元島上方台地遺跡
しんさとひがしもとじまいせき
新里東元島遺跡
平良市
下地町
上野村
城辺町

旧円覚寺跡

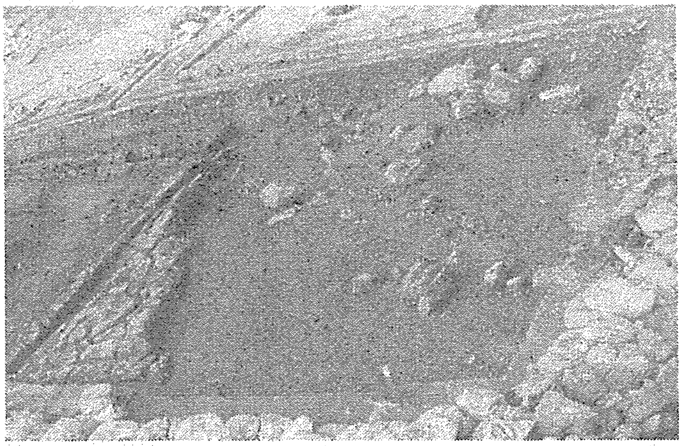
所在地：那覇市首里当蔵町
時　代：15世紀末～近代
調査期間：平成12年10月1日～11月30日



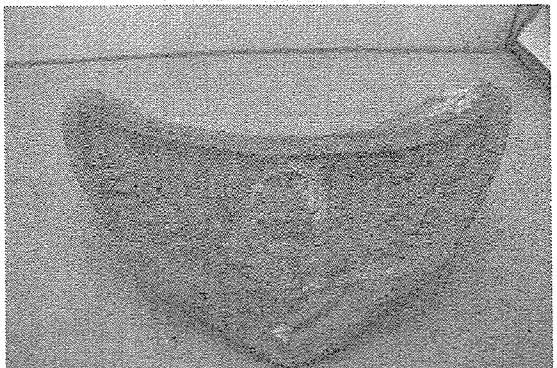
全　景

旧円覚寺跡は、首里城跡の北西に位置する県内最大の臨済宗寺院の跡で、文化庁補助事業に伴い平成9年度から発掘調査が行なわれています。円覚寺は第二尚氏王統の菩提寺で初代王尚円を祀るため、尚真王によって1494年に造られました。

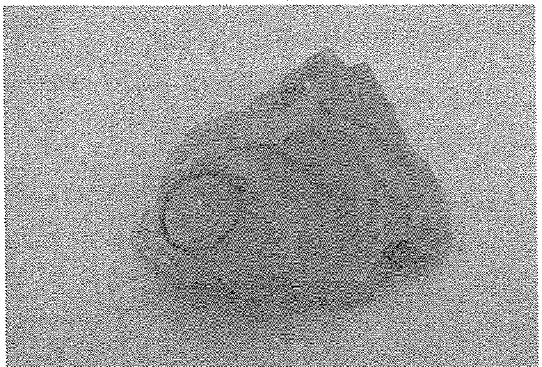
12年度の遺構確認調査では、戦前まで使用されていた円覚寺鐘楼の基壇、井戸の一部、仏殿西側基壇、龍淵殿北側基壇が確認されました。また、鐘楼跡では詳細不明の石列も確認されています。



鐘楼跡



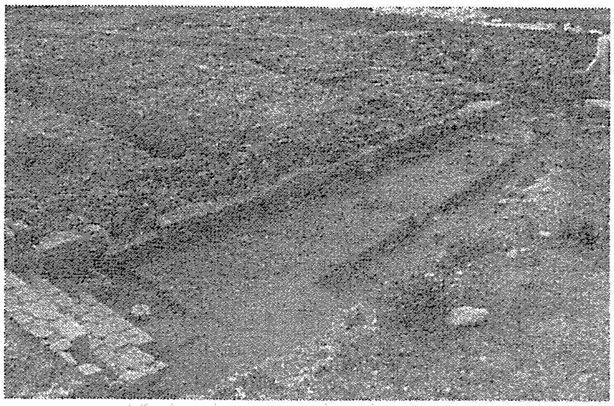
軒平瓦



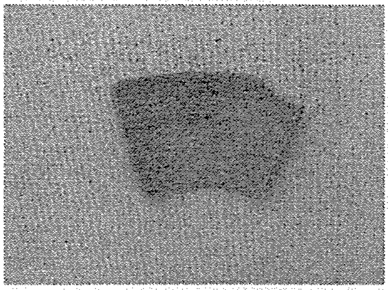
鬼瓦

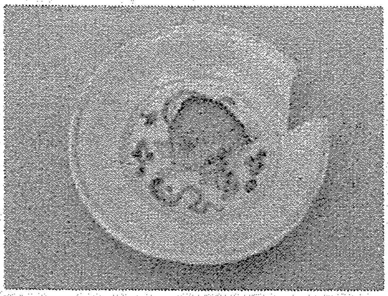
● 首里城跡内郭「御内原地区」

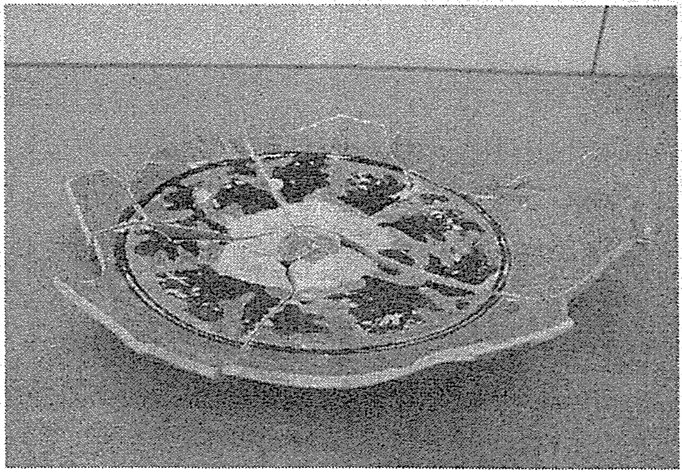
所 在 地：那覇市首里当蔵町
時　　代：グスク時代～近代
調査期間：平成12年12月1日～
　　　　　平成13年3月30日


全 景

「御内原地区」は正殿とその後方世誇殿・世添殿・女官居室（国王妃の居室・国王に仕える女官の詰所）と呼ばれる建物があった場所です。平成11年度から首里城公園整備事業に伴った遺構確認調査が行われており、12年度の調査ではその建物基壇と階段の一部、また、16世紀頃の石列、石積み、石畳道や、15世紀頃の石列や柱穴が検出されました。これらの遺構は調査区北側に集中しており、少なくとも3度の変遷を捉えることが確認されました。遺物は主に青磁、褐釉陶器、染付、沖縄産陶器、瓦、玉、金属製品などが出土しました。


高麗青磁碗


染付皿「玉取り獅子」

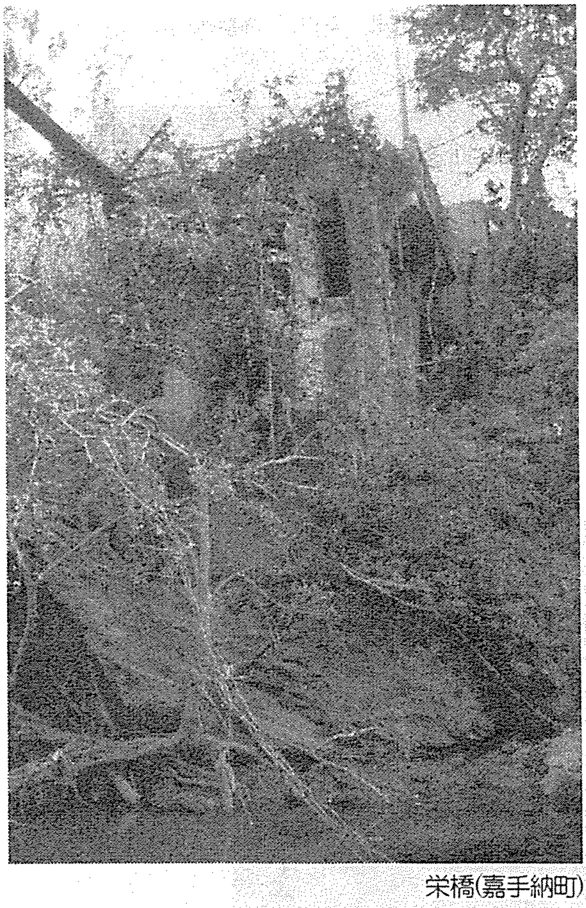

緑釉陶器盤

戦争遺跡詳細分布調査

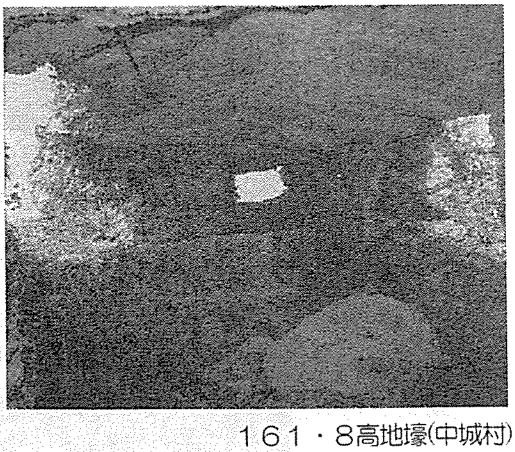
調査対象地：本島中部市町村（石川市、具志川市、宜野湾市、浦添市、沖縄市、与那城町、勝連町、読谷村、嘉手納町、北谷町、北中城村、中城村、西原町の13市町村）地域
調査期間：平成12年5月1日～平成13年3月31日
時　　代：近代

戦争遺跡の分布調査は、近代以降の戦争（沖縄においては沖縄戦）と、その遂行過程の中で、戦闘や事件の加害・被害に関わって沖縄県内で形成され、かつ現在に残された構造物・遺構や跡地を対象として平成10年度から行なっています。

12年度は、文献調査等によって得られた情報をもとに、226の戦争遺跡について現地調査を実施しました。また、必要に応じて構造物・遺構や跡地の計測・図化、分布図の作成、聞き取り調査などを行いました。



与那城監視哨跡(与那城町)

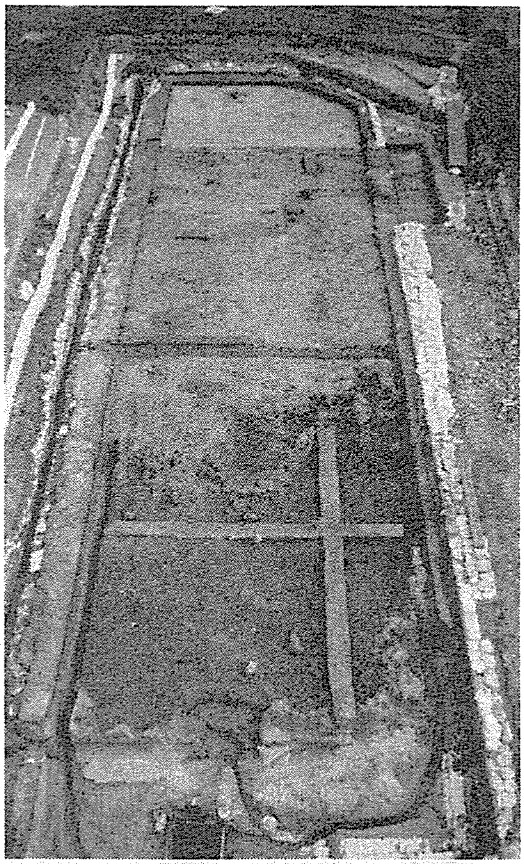


栄橋(嘉手納町)

161・8高地壕(中城村)

新城下原第二遺跡

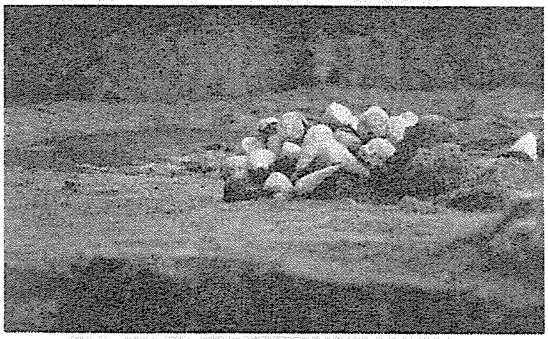
所在地：宜野湾市安仁屋前原
時　代：縄文時代～平安時代・
　　　　グスク時代・近世・近現代
調査期間：平成12年7月10日～
　　　　　平成13年2月15日



全景

新城下原第二遺跡の発掘調査は、キャンプ瑞慶覧（在沖米軍海兵隊基地）内の車両整備工場及びガソリンスタンド建設に伴い、平成11年度から継続して行なわれています。12年度の発掘調査では、近現代の水田跡や近世の溝状遺構、弥生時代～平安時代のイモガイ集積遺構（2基）、溝状遺構が見つかりました。また、調査区の一角で行なった試掘では縄文時代の爪形文土器片や獣骨片などが確認されました。

イモガイ集積遺構：弥生時代に九州との貝交易のためにストックされたイモガイを集めたと考えられている。

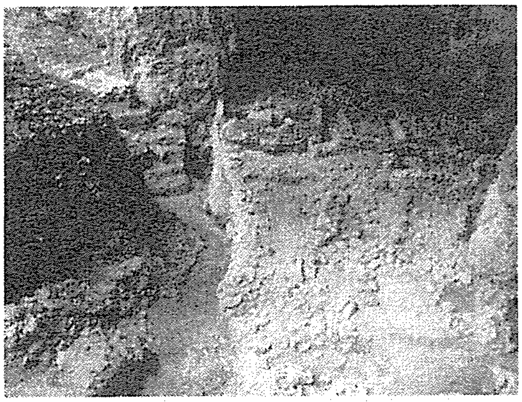


イモガイ出土状況(側面)

イモガイ出土状況(上面)

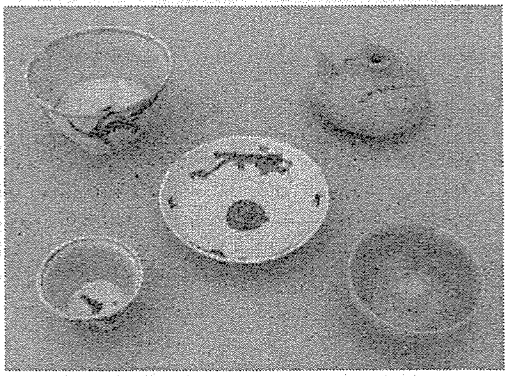
ヤッチのガマ・カンジン原古墓群

所在地：島尻郡具志川村字上江洲カンジン原
時　代：近世～現代
調査期間：平成12年6月1日～
　　　　　平成13年2月2日



遺構の全景

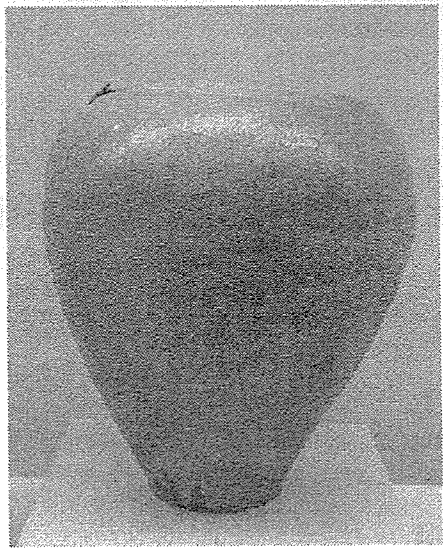
ヤッチのガマ、カンジン原古墓群の発掘調査は、平成10年度からの県営かんがい排水事業（カンジン地区）に伴って、ヤッチのガマを中心に発掘調査が行なわれました。12年度はこれまでの調査で確認された石積み遺構の全体を検出しました。その規模は長さ15m、高さ1～2.5mあることを確認しました。その他に、井戸のような遺構、建物の礎石なども検出されました。遺跡からは沖縄産陶器や、本土産・中国産陶磁器が数多く出土しており、その多くが完形品に近い状態のものでした。



出土品の一部

染付碗

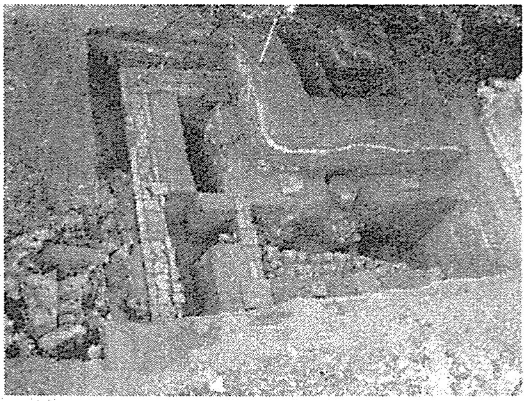
文字の消された厨子甕



白釉陶器壺

御茶屋御殿跡（うちゃやうどぅんあと）

所 在 地：那覇市首里崎山町
時　　代：近世～現代
調査期間：平成12年7月3日～10月6日


遺構全景

御茶屋御殿跡は首里城跡の東方にある旧王家の別邸（べってい）で、国王が遊覧（ゆうらん）し、冊封使（さっぽうし）などの国賓（こくひん）の歓待（かんたい）等に使用されていました。発掘調査は、文化庁国庫補助事業により、平成12年度から行なわれています。調査は、御茶屋御殿の建物跡の確認と敷地の範囲確認を目的に実施しました。御茶屋御殿の跡地に調査区を設けて調査を行なった結果、建物跡、廁（かわや）跡(トイレ)、石積遺構が検出されました。また、戦前の状況を知る古老からの聞き取り調査もあわせて実施し、往時（おうじ）の御茶屋御殿に関する情報を収集しました。

綾門大道（あいじょーうふみち）

所 在 地：那覇市首里金城町
時　　代：グスク時代～現代
調査期間：平成12年4月2日～5月18日

石積み北側の石畳

綾門大道とは中山門（ちゅうざんもん）から守礼門（しゅれいもん）の間に設けられていた首里城に続く道で、県営首里城公園の整備に伴い平成10年度から12年度にかけて発掘調査が行なわれました。守礼門側の綾門大道とその周辺施設の検出（けんしゅつ）を目的として行なわれた平成10～11年度の調査に続いて、12年度は、那覇市立城西小学校の敷地内に調査区を設けて守礼門北西側の調査を行いました。その結果、綾門大道の北端を担う石積の根石（ねいし）とその石積の北側から石畳の一部が検出され、遺物は青磁（せいじ）、染付（そめつけ）、褐釉（かつゆ）陶器（とうき）、灰瓦、赤瓦など出土しました。

綾門大道（あいじょーうふみち）：琉球王府時代の国内第一の道路
中山門（ちゅうざんもん）：現首里高校裏門付近にあった門

首里城跡「継世門周辺地区」

所 在 地：那覇市首里当蔵町
時　　代：グスク時代～現代
調査期間：平成12年10月10日～
平成13年3月9日

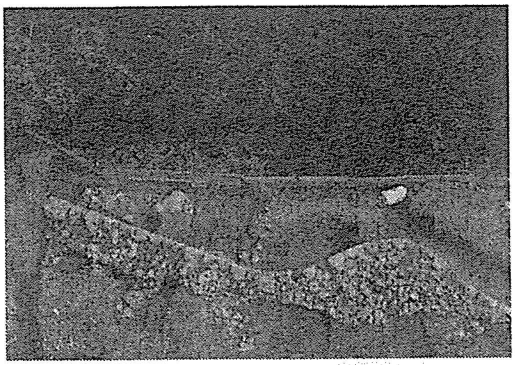
継世門側から見る階段

継世門は首里城跡の南東側の外郭に造られた門で、戦前まで日常の通用に用いられていたようです。継世門周辺地区の発掘調査は平成13年度からの整備工事に備え、平成10年度から行われています。最終調査となる12年度は継世門前の階段跡の検出を目的とした調査を行ないました。

調査区付近は、旧琉大の工事等で地形が改変されていましたが、階段跡（5段目～11段目）、スロープ状石敷、土留め石積み(?)などの遺構が良好な状態で確認されました。

首里城跡「城郭」

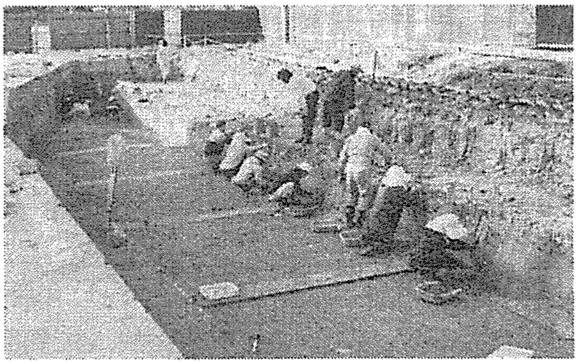
所 在 地：那覇市首里当蔵町
時　　代：グスク時代～近代
調査期間：平成12年8月 1日～9月30日
平成13年1月15日～3月30日


切石積み

首里城城郭の調査は首里城公園整備事業に伴って昭和47年度から行われています。平成12年度は正殿裏側（首里城北西側）の城郭の遺構調査が2度行われ、切石の石積みが幅約15m残存しているのが確認されました。また、裏込め内からも古い時期のものと思われる野面の石積みが検出されました。

後兼久原遺跡

所在地：北谷町字桑江後兼久原
時　代：グスク時代
調査期間：平成12年11月1日～
平成13年3月30日


発掘風景

後兼久原遺跡は、北谷町役場の裏側（東側）に位置する遺跡で、在沖米軍海兵隊基地キャンプ桑江北側地区（平成13年度返還予定地）内のジェット燃料用油管（パイプライン）移設工事のため、発掘調査が行われました。

平成12年度の発掘では、グスク時代の柱穴が検出されましたが、発掘範囲が狭いため、性格ははっきりとは分かっていません。その他、植物植栽穴と思われる列状ピット群や溝状遺構が検出されました。グスク土器、陶磁器（白磁・青磁・類須恵器）等が出土しています。

列状ピット群：列状に並んだ複数の穴（畑の跡か？）

基地内埋蔵文化財分布調査

調査対象地：在沖米軍海兵隊基地普天間飛行場
（宜野湾市）
調査期間：平成12年8月1日～
10月31日

遠景

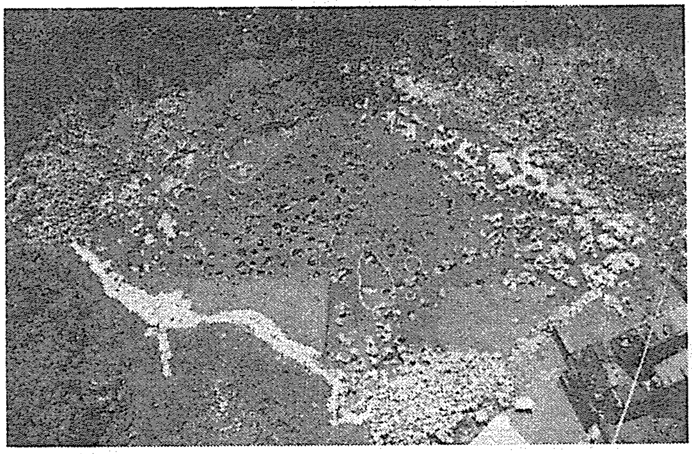
基地内の埋蔵文化財分布調査は、平成9年度から行なっており、12年度は宜野湾市にある在沖米軍海兵隊基地普天間飛行場内の試掘調査を行ないました。在沖米軍海兵隊との調整で、74ヶ所の試掘調査を実施し、その結果、28ヶ所で遺構及び遺物包含層と考えられる個所が確認されました。試掘作業の安全確保のために、不発弾等危険物確認の磁気探査も併せて実施しました。

新里元島上方台地遺跡・新里東元島遺跡

所在地：宮古郡上野村新里
時　代：中世～近世
調査期間：平成12年6月4日～平成13年3月16日

新里元島上方台地遺跡・新里元島遺跡の発掘調査は、宮古一周線道路新築改良事業の一環として、県道保良上地線道路新築改良事業に伴って平成11年度から行なわれました。

12年度の発掘では石組み遺構、礫敷き建物、また周囲のブッシュ内に広がる屋敷囲いの石積みの範囲が確認できました。新里東元島遺跡に付随する琉球石灰岩丘陵部上の岩陰墓、ほりこみ墓、石積墓などの古墓群からは、集石遺構や埋葬遺構などが検出されました。



新里元島上方台地遺跡

新里東元島遺跡

平成１３年度に調査を予定している遺跡は下記の通りです。

平成1 3 年度の発掘調査予定

	遺　跡　名	所在地	予定期間	時　代
1	首里城跡（城の下地区）	那覇市	８月～２月	グスク時代～近代
2	首里城跡（南側城壁下地区）	那覇市	９月～２月	グスク時代～近代
3	首里城跡（鎖の間地区）	那覇市	９月～２月	グスク時代～近代
4	首里城跡（城郭）	那覇市	８月～９月	グスク時代～近代
5	旧円覚寺跡	那覇市	６月	１５世紀末～近代
6	御茶屋御殿跡	那覇市	７月～８月	近世～現代
7	新城下原第２遺跡	宜野湾市	９月～２月	縄文時代～近現代
8	後兼久原遺跡	北谷町	４月～１１月	グスク時代
9	尻並遺跡	平良市	８月～１０月	中世～近世
10	戦争遺跡詳細分布調査	本島中北部	７月～２月	近代
11	新空港予定地内遺跡詳細分布調査	石垣市	１１月	
12	基地内埋蔵文化財分布調査	宜野湾市	８月～２月	

沖縄県立埋蔵文化財センター
平 14.3.11 成
069.9199
0k